



解散式で隊旗の収納を行う役員



解散式後、佐藤隊長（前列中）と役員全員、高橋町長（前列右3）、千葉消防団長（前列左3）での集合写真

## 金ヶ崎町婦人消防協力隊解散式

金ヶ崎町婦人消防協力隊は9月19日に金ヶ崎町役場で解散式を行い、55年間の歴史に幕を下ろしました。

昭和38年に下永沢地区をはじめ4地区に誕生し、各地区で結束して昭和43年4月に町内全戸加入で結成され、金ヶ崎町消防団とともに地域防災活動で活躍。消防学校の研修や地域での訓練の成果を発揮し、消防競技大会や火災予防演習時にポンプ操法や小隊訓練を披露するなど地域の防災活動に力を果たしてきました。

しかしながら、時代とともに隊員数が徐々に減少し、隊としての存続が厳しくなってきたことから、隊員や地域と話し合いを重ね、解散に至りました。解散式では、高橋寛寿町長から「さまでま災害時に協力いただき感謝している。隊はなくなるがこれからノウハウを活かして、地域活動に繋がってほしい」、千葉正男団長から「見返すと消防隊旗もだいぶ色褪せてきた。それまでの歴史があつてこそである。協力隊に支えられ今の消防団があると思う。今後は各地域、各家庭から防災へ繋げてほしい」とそれぞれ労いの言葉と今後の期待を話しました。

最後に佐藤裕子隊長から隊員、そしてこれまで支えてくれた全ての方への感謝の言葉で式は終了しました。



## 令和6年秋季火災予防運動を実施します

■運動期間 11月9日(土)～15日(金)

- 運動内容 ▶消防車両による防火パトロール
- ▶家庭防火点検、特に住宅用火災警報器未設置者への設置推進と高齢者世帯への防火指導
- ▶消防屯所、消防車両、消火栓等の点検
- ▶午後8時に防災無線によるサイレン放送

◇リチウムイオン電池を正しく処分しましょう  
スマートフォン、電子タバコ、モバイルバッテリー等にあるリチウムイオン電池は、強い衝撃が加わると発煙・発火する恐れがあり、ごみ収集車やごみ処理施設に混入していると火災事故につながります。町ではリチウムイオン電池を回収しません。最寄りの家電量販店等にご相談ください。

### 住宅防火 いのちを守る 10のポイント

- 4つの習慣
  - ▶寝たばこは絶対にしない、させない
  - ▶ストーブの周りに燃えやすいものを置かない
  - ▶コンロを使うときは火のそばを離れない
  - ▶コンセントのほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く
- 6つの対策
  - ▶ストーブやコンロは安全装置の付いた機器を使用する
  - ▶火災警報器を定期的に点検し10年を目安に交換
  - ▶寝具、衣類およびカーテンは、防災品を使用する
  - ▶消火器等を設置し、使い方を確認しておく
  - ▶お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく
  - ▶防火・防災訓練への参加、火防点検などの戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

☎ 生活環境課 (内線 2134)

## 『環境にやさしい行動』のススメ vol.40

☎ 生活環境課 (内線 2135)

### 〇ごみの排出の少ない社会を目指して

町では、一般廃棄物処理基本計画のなかで、施策の基本として4R（リフューズ（発生回避）、リデュース（排出抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用））を進めています。ごみの排出の少ない社会を目指して、地球にやさしいライフスタイルを実践してみませんか。

Refuse (リフューズ) ：ごみの発生回避	Reduce (リデュース) ：ごみの発生・排出抑制	Reuse (リユース) ：再使用	Recycle (リサイクル) ：再生利用
・過度な包装や梱包は断ろう ・不要な割り箸やストローは断ろう	・お買い物にはマイバッグを持っていこう ・3キリ運動（食材の使い切り・料理の食べきり・生ごみの水切り）を実践しよう	・詰め替え商品を購入しよう ・リサイクルショップやフリーマーケット、フリマアプリ（ジモティーなど）を使ってみよう	・きちんと分別し、資源として再生利用しよう ・リサイクル製品を購入しよう

県では、10月を「3R推進月間」として、ごみの発生抑制を優先した「3R」の普及啓発により、ゼロエミッション（ごみの排出の少ない）地域社会を目指して「もったいない・いわて3R運動」を展開しています。



地域の掲示板  
ジモティーを  
活用しよう！  
詳細は下記へ



▲町ホームページ



▲ジモティー  
「無料会員登録」

## 保健情報

金ヶ崎町西根樋水 98 e-mail : hofuku@town.kanegasaki.iwate.jp  
☎ 保健福祉センター 元気 100 歳健康支援係 ☎ 44-4560

### 本年度最後の集団検診です

町は、次のとおり追加検診を実施します。本年度まだ受けていない人は、忘れずに受診してください。

実施日	検診内容(対象者) ※年齢基準日は令和7年4月1日	会場	受付時間
11月8日(金)	▶子宮頸がん検診(20歳以上の女性、2年に1回) ▶大腸がん検診(40歳以上の人) ▶骨粗しょう症検診(41、46、51、56、61、66、71歳の女性) ※午後のみ実施	保健センター	【午前】 午前9時30分～10時30分 【午後】 午後1時～2時 ※開場は各1時間前
11月9日(土)	▶乳がん検診(40歳以上の女性、2年に1回) ▶大腸がん検診(同) ▶骨粗しょう症検診(同) ※午前・午後実施		

### ■自己負担額(課税世帯)

子宮頸がん検診 500円、乳がん検診 1,300円、大腸がん検診 500円、骨粗しょう症検診 500円

◇肺がん喀痰検査・大腸がん検診容器を返却してください(返却期限：11月29日(金)まで)

本年度の検診を受診せず、容器がお手元にある人は、保健福祉センターに返却してください。

### 【関連年表】西暦(和暦)

### 主要事項

1968(昭和43)	婦人消防協力隊は昭和38年に下永沢を始め4地区に誕生し、以来各地区で結成し、昭和43年4月町内全戸加入21支部で金ヶ崎町婦人消防協力隊を発足した
1971(昭和46)	隊の活動充実強化を讃え、金ヶ崎町長から隊旗が授与
1972(昭和47)	消防事業に協力した功績により、岩手県知事表彰を受賞
1983(昭和59)	婦人消防協力隊もポンプ操法の訓練をして、消防演習で披露
1985(昭和60)	第1回胆沢地区婦人消防の集いを開催。同年、胆沢地区婦人消防連絡協議会が発足
1987(昭和62)	岩手県ポンプ操法大会に金ヶ崎町婦人消防協力隊が特別参加し、県下の消防関係者が見守るなかで、小隊訓練を堂々と披露
1988(昭和63)	8月に起きた県南山間部集中豪雨により、町内各地で中小河川の氾濫し、破堤、越水、落橋、農地の冠水、流失、農業施設の損壊、道路の損壊等の大きな被害を被った。被害総額は102億6900万円に及ぶ。迅速な復旧に向け、各支部の隊員が活躍し復興作業に尽す。全国消防操法大会に金ヶ崎町婦人消防協力隊が特別参加し、全国の消防関係者が見守るなかで、小隊訓練を堂々と披露

### 【関連年表】西暦(和暦)

### 主要事項

1990(平成2)	火災予防の普及に尽力した功績により岩手県婦人消防協力連絡協議会長功労表彰を受賞
1991(平成3)	火災予防の普及に尽力した功績により消防庁長官から安全功労表彰を受賞
1992(平成4)	火災予防活動及び火災予防の普及に尽力した功績により内閣総理大臣から国民安全功労表彰を受賞
2001(平成13)	横浜市で開催された第15回全国女性消防操法大会で優良賞を受賞
2024(令和6)	隊員一同同意のもと解散式が行われ、発足から55年間の歴史に幕を下ろす



H13.10.18 第15回全国女性消防操法大会(横浜市)